



## 飯野ビル全景



ビル正面入口から受付フロアまでの  
直通エスカレーター



## 双日(株) オフィス 周辺の案内図

〒100-8691 千代田区内幸町2-1-1 飯野ビルディング



地下鉄アクセス メトロ千代田線・丸の内線・日比谷線「霞ヶ関」下車、出口C4  
メトロ銀座線「虎ノ門」下車、出口9

**\*\*\* 2019年東京社友会総会・懇親会開催のお知らせ \*\*\***

2019年度東京社友会総会・懇親会を下記要領で開催致します。皆さま、お誘い合せの上奮ってご参加下さい。

開催日 : 2019年 **7月18日**(木) 開会 **11:30AM ~ 13:30**

注) 会場は 11:00AM から開けておきます。

会 場 : **双日株式会社本社・21階 大会議室**

東京都千代田区内幸町2-1-1 (飯野ビル内)

アクセス(メトロ) :

\*千代田線・丸の内線・日比谷線「霞ヶ関」**出口C 4方面**へ進み、  
通路天井の案内板に従って、館内エスカレーターで**3階オフィスロビー**迄。

\*銀座線「虎ノ門」下車、**出口9**。飯野ビル迄徒歩5分程度。

会 費 : **無 料** (飲物、軽食を用意致します。)

**特記事項**

AAA 同封のハガキで **出欠** をご返事下さい。締切 **6月17日(火) 必着**。

※アンケートのご協力もよろしくお願いいたします。

BBB このビルはセキュリティ確保のため、**入館カード** が必要です。

3階ロビーの双日受付付近で待機している社友会担当世話人に氏名を告げて、このカードを受け取った上、ゲートを入れて下さい。

ゲート出入りの要領は、SUICAやPASMOの使い方と全く同じです。

また、このカードは退館の時も必要です。それまでは必ず手元に保管下さい。

\* その他、お問い合わせは、「世話人一覧表」記載の世話人か、または、社友会事務局にお寄せ下さい。FAXは03-6858-7216、Eメールは [menkwa@sojitz.com](mailto:menkwa@sojitz.com) です。

## 2019年新年賀詞交歓会における 会長挨拶

会 長 石 原 啓 資



新年明けましておめでとうございます。

ただいま、ご紹介いただきました会長の石原でございます。晴天に恵まれた晴れやかなお正月で、すがすがしい新年を気持ちも新たに会員の皆様と共に迎えることができ嬉しい限りです。

また、本日は年始のご多忙の中、双日株式会社様から藤本社長様はじめ、多数の役職員の皆様方にご出席賜り、心より御礼申し上げます。有難うございます。

本年2019年は平成から新たな元号になる節目の年であります。昨年から幾度も「平成最後の何々」と耳にし、些か食傷気味ですが、会員の皆様におかれましては、この30年間いろんな思い出をお持ちではとご推察いたします。

余り過去を回顧したくない性格ですが、平成元年末に日経平均株価が4万円近くまで高騰しその後下落を続け、昨年末は何とか2万円ぎりぎりで行きました。米中の覇権争いの影響で経済の曲り角に差し掛かったのではと感じられます。一方、技術革新により携帯電話（スマホ含め）の普及率が平成元年に0.2%だったものが、昨年135%と一人当たり数台を携帯する状況になっています。この30年間は何だったのでしょうか？

過ぎ去った過去は変えることはできません、本年から始まる新元号の新たな時代をどう生きてゆくかが重要ではないでしょうか？

世界に目を向ければ、米中の睨み合いは簡単に解決する問題ではなく長期間続くのではと思います、欧州でのイギリスのEU脱退問題も落としどころが全く推測できない状況です。

国内では、亥年は選挙の年と言われ統一地方選挙、参議院選挙が行われます。野党の纏まりが期待できぬ現状が続けば何ら変わらないのではと思います。世界的には大きく変化が進んでおり新たな時代感を創造しています。然し、日本はその変化に自主的に参加できているか、若干疑問を感じています。経済面では大型M&Aを実施して世界競争の中に積極的に参加する企業が出てきていることは喜ばしいことと感じています。自らの将来的立ち位置を明確にして前進することが不可欠ではと思っています。

双日株式会社も将来の立ち位置を明確にして着実に前進されていることは社長様はじめ役員皆様のご努力の賜物と敬意を表する次第です。2019年3月期見通しでは当期利益を上方修正し700億円を発表されています。

藤本社長様の「私の課長時代」の日経新聞記事を拝見し、苦しい時代を忘れず経営に携わられているお考えを感じ取れ、苦しい時代を共にした私としては双日が生まれ変わり、健全で着実な歩みをされていることをうれしく思っています。陰ながら応援させていただいています。

このニチメン東京社友会に触れますと、昨年のお話させていただいた副会長・世話人代表に大山様にご就任いただきましたが、任期一年とのお約束でしたのでこの新年会後の世話人会で新たな副会長、世話人代表を選任することにいたします。13年前に設立に携わっていただいた方々から次世代のメンバーが主体の世話人会になることも皆様にご報告させていただ

くと共に、引き続きこの社友会にご協力賜りたくお願い申し上げます。

社友会HPも逐次改訂させていただいております。「ふれあい広場」も項目別に投稿していただけるよう知恵を絞りました。ご活用ください。新年会と総会・懇親会年二回の会合で一堂に会してアナログ的に互いの近況をお話していただく一方、デジタル的にHPにて会員間で逐次現況を交換していただき会員間の更なる交流が活発になれば、世話人会といたしましてもやりがい益々感じる次第です。

最後になりましたが、会員皆様のご健康で本年お過ごしされること、双日株式会社様が益々ご発展されることを祈念して私のご挨拶とさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

Nmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnm

## 来 賓 ご 挨 拶

双日株式会社 代表取締役社長 藤 本 昌 義



年が明けてから少し日が経ってしまったタイミングではございますが、皆さま、新年明けましておめでとうございます。

今年も諸先輩方の前でご挨拶申し上げる機会を頂き、誠に有難うございます。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

ニチメン東京社友会におかれましては、石原会長を始め事務局の方を含めた皆さまに、いつも社友会の運営など多大なご支援を頂いており、改めましてこの場をお借りし厚く御礼申し上げます。

さて皆様、今年の元旦の実業団ニューイヤー駅伝は皆様ご覧になりましたでしょうか？ニューイヤー駅伝のテレビ放送において、当社の企業広告を放映しました。実は昨年10月以降、双日の企業広告をテレビでも放送しています。テレビ朝日で毎週火曜日の夜7時から、「林修の今でしょ」という番組のコマーシャルで放送しています。同番組が特番でお休みの際は、土曜日の夜7時からの「池上彰のニュース そうだったのか」のコマーシャルで放送されていますので、是非ご覧ください。

企業広告のコンセプトは「発想を実現する会社」です。世の中の変化は勢いを増しており、当社の機能・役割もその変化についていかなければなりません。その為にも社員一人一人の、これまで培った経験と、柔軟な発想を結びつけて、価値ある新たなビジネスを実現して欲しいと思っています。

当社の状況を報告致しますと、昨年11月に第2四半期決算を発表致しましたが、第2四半期までの当期利益は、前年同期比99億円の増益の371億となりました。

石原会長のお話にもございましたが、通期の見通しを630億円から700億円に上方修正し、最高益を更新する見通しです。

ここまでは順調に推移しておりますが、申し上げるまでもなく、<sup>べいちゅうほうえき まさつ</sup>米中貿易摩擦の動向を含め、世界情勢は先行きが不透明になってきておりますので、決して気を抜かずに引き続き取り組んで参ります。

今年の干支は十二支の十干において「己亥」となります。「果実が種子となり、エネルギーを蓄えて次の世代へと向かう準備をする」という意味の年です。

中期経営計画最終年度の目標を達成し、POST中期経営計画で1,000億円を目指せる体制としていけるかどうかは、中期経営計画の2年目の今年、優良な資産を確りと仕込んでいけるかにかかっており、今年は勝負の年です。

事業環境の先行きが読みにくい状況ではございますが、中期経営計画2020の目標を確実に達成できるよう、全社一丸となって邁進する所存です。諸先輩方が築き上げられた資産、ビジネス、人脈などの基盤を、しっかりと引継ぎ、この双日をさらに成長させるために、今年も引き続き努力して参りたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しくお願いいたします。

以上をもって、私の挨拶に代えさせていただきます。

Nmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnm

## 2019年 新年会にて 長寿者お祝い対象者(敬称略)

米寿(1932年生まれ)

久保 貞二 ・ 桜井 潤一 ・ 西村 弘 ・ 松村 信男

欠席長寿者：

米寿(1932年生まれ)：小林齊之助・川崎恵美子・幾島 清・高田 秀子・中谷 喜良



ご長寿表彰(米寿)

## ご長寿者代表あいさつ

久 保 貞 二



只今、ご紹介に与りました久保貞二です。僣越ながら表彰者を代表して、ご挨拶とお礼を申し上げます。

個人的には、現在、2度の白血病の事後治療中の身ですが、本日、米寿の表彰を受けることが出来たことは大変幸運なことと思っています。

私は、1956年（昭和31年）、日綿實業(株)東京支社に入社し、機械部に配属され定年まで機械部門の勤務でした。最初は繊維機械担当で、その時の1番の思い出は日清紡と香港中国染廠との合弁で香港に紡績工場の建設でした。日清紡工務部に席を頂き約半年、午前は日綿、午後は日清紡での勤務でした。

その後、工作機械課に移り、そこで1962年はじめて海外出張でブルガリアに行きました。

その後は、翌年インド・カルカッタ支店駐在となりました。4年半の勤務中で大きな出来事はインド国鉄のマドラス郊外の交流電車機器の国際入札でした。本命の日本連合（日立、三菱、東芝3社）を含む世界の重電機メーカーに対してニチメンは富士電機、東洋電機と組んで応札し1番札となりました。しかしながら入札書類に欠点があり失格となる処、ちょっとした機転で受注に成功しました。

カルカッタからの帰国後は、柴田利雄元日綿取締役が管財人である更生会社三善工業で管財人補佐として、約2年半勤務して更生終結に迄ごぎつけつけました。この時の経験から私は以後営業経理を担当することになりました。

その後、バンコックのヤンマータイランドの財務経理責任者として、設立当初から4年半も勤務いたしました。

定年後は縁あって食糧部門の関係会社に68歳まで勤めました。

兎にも角にも、本日、この場に立って、晴れの表彰を頂くことができたことは、真に幸運なことであり、関係各位に感謝を申し上げ、また最後になりましたが双日様の今後の発展を祈念して私のご挨拶といたします。どうも有難う御座いました。

## 2019年「第12回新年賀詞交換会」開催報告

広報チーム

1月22日（火）、双日(株)本社大会議室をお借りして、新年賀詞交換会を開催。

寒さに負けずに元気あふれる多数の会員諸氏、双日株式会社様からのご来賓を含め146名（別掲載出席者一覧）のご出席をいただきました。

11時に開場、定刻11時30分の総合司会奥村世話人の開会宣言で始まり、当会石原会長挨拶、続いて来賓代表として双日株式会社代表取締役社長藤本昌義様からお言葉をいただきました。別ページ掲載の詳細をご覧ください。

続いて、長寿会員のお祝い表彰に移り、代表として久保貞二様から昭和31年入社以降の国内外での業務体験（主に機械部門）など披露していただきました。

### 懇親会

12時開会、大久保海生様の“乾杯”ご発声と皆様のご唱和により、一気に静から動へ。飲み物を求め、山海の珍味・美味を頬張り、親しき仲間を探すなど、会場内あちらこちらで笑い声、話の輪ができ、皆さんが相互の無事を確認されておられました。また、亥年生まれの方々（昭和10年：7名、昭和22年：4名）に集まっていたいただき記念写真を撮らせていただきました。

13時30分の「中締め」があり、皆さん次回社友会、並びにそれぞれのOB会での再会を約して御開きとなりました。ではまた！



2019年1月22日現在



# ◎2019年 賀詞交歓会 出席者

## 2019.01.22 開催

(一般会員)  
 ア 青木 聡 弥  
 青木 政 和  
 浅井 正 彦  
 東井 正 子  
 甘利 武 廣  
 荒池 武 雄  
 池田 永 幸  
 石原 靖 浩  
 五十畑 靖 造  
 泉藤 利 枝  
 伊藤 村 安 夫  
 今植 隆 夫  
 津木 長 彦  
 大久保 隆 三  
 大田 弘 之  
 大塚 静 悦  
 大野 禎 雄  
 大平 栗 岩  
 岡島 有 賢  
 小野 泰 司  
 小野 田 博  
 勝田 木 順  
 金浦 澤 信  
 唐崎 西 和  
 川寺 厚 勲  
 木城 弘 二  
 久保 貞 明  
 倉又 重 夫  
 小斎 重 勝  
 五月 女 造  
 坂井 良 司

桜井 潤 一  
 佐藤 三 克 美  
 分一 塚 美 哲  
 篠白 杉 須 俊 忠  
 陶山 須 藤 俊 忠  
 大工原 正 恒  
 高木 田 尻 中  
 武田 田 丹 下  
 田富 豊 根  
 豊間 尾 川 谷  
 中中 中 島 村 口 喜  
 八 橋長 谷川 澤地 和道  
 長谷川 花 濱 林 樋 口  
 花澤 地 林 樋 口  
 久平 比 留 廣 深  
 藤 古 秀 正 直

務登 志 雄  
 本間 登 洋 磐 憲 邦 信  
 マ 本牧 榊 松 松 水 溝 箕 村 望 森  
 矢山 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山  
 ヤ 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山  
 石原 啓 資  
 大城 弘 雄  
 赤入 隆 史  
 大野 陸 夫  
 奥川 幸 子  
 北木 奈 緒  
 倉持 次 厚  
 近藤 孝 一  
 新園 中 彦  
 西村 恒 俊  
 蛭山 田 美  
 榊 森 淑 子

(50音順、敬称略)

(会員) 支援者  
 市川 伸 江  
 垣田 佐 代 子  
 笠原 聖 子  
 滑川 和 子  
 堀 典 代

(非会員) 支援者  
 今井 恵 子  
 増川 恵 子

(双日ご来賓)  
 原 昌 大 義  
 藤本 原 中 精 一  
 西田 中 引 雅 亮  
 田中 笠原 林 貴 文  
 櫛小 栗 佐 々 木 部 田 真 正 敏  
 栗佐 宮 山 谷 花 河 西 敏 章

(非会員) 双日支援者  
 大熊 恭 子  
 村松 慶 子  
 野村 惠 子

- ①一般会員 105名
- ②世話人等 24名
- 合計 129名
- ③双日ご来賓等 17名

出席者数 合計  
146名

## 2019-1-22東京社友会乾杯の辞

大久保 海 生



皆さん新年明けましておめでとうございます。

長年ご一緒に働く時を過ごした皆様の懐かしいお顔を拝見していると私たちが生まれ過ごした時代の事を思い起こさずに居られません。

その時代は我が国2000年の歴史を通じて最も特異な年月であったのではないかと思います。

昭和の初めに生を受けやがて戦争によって国土は焼け野原となり、敗戦の後は飢えて苦しい少年時代がありました。

やがて一から日本を作り直す復興の時代がやって来て、私達はそれぞれのご縁でニチメンに集まり国家経済再建の一歯車となって汗を流している内に、気が付けば日本経済は奇跡的な高度成長を果たしていました。私個人なども、そのさなかでかけがえのない家庭を築き家族を育てる幸運に恵まれましたが、それは時代の勢いとニチメンのお陰であったと心から感謝している次第です。

やがて高度成長の勢いが行きすぎて狂気のバブルを膨らませてしまい、遂には「日本の国土を売ればアメリカを4回買える」等の冗談が出るほどの奢りの一瞬も経験しました。

これはいかにも行き過ぎたと皆が平静に戻る頃、御代も平成に変わりバブルはパンクしてやがて我々にリタイアする時が来た訳ですが以後安定した老後を送っています。

過去を振り返った後で気になるのはこれからの事、即ち我らが後継双日株の今後ですが最新の株主通信によるとこの3月期の純利益はなんと当初の見通しをも上回る700億円と予想されているのに驚きました。これこそ双日現役の皆様が叡知と努力で作りに上げた実力による成果なのだとは心から感銘して拍手を惜しまないものです。

そういう訳で、ここにお集りの皆様益々御健康で良き新年と新しい御代をお迎えになりますように、そして双日株の更なるご発展を祈念して乾杯の盃を上げたいと思います。御唱和ください。 乾杯



### 2019年賀詞交歓会・懇親会風景





昭和10年生まれの年男 (亥)  
2019/01/22

「昭和10年亥年生まれ」



### 2019年賀詞交歓会・懇親会風景



昭和22年生まれの年男 (亥)  
2019/01/22

「昭和22年亥年生まれ」



2019年賀詞交歓会・懇親会風景





振込先は、下記いずれかを利用して下さい。(振込手数料は各自ご負担願います。)

### 1) 郵貯銀行

口座番号 : 00100 - 4 - 318041

口座名義 : ニチメン東京社友会

(ゆうちょ銀行に口座のある方は、口座間送金を利用すると手数料は無料です。)

### 2) 三菱東京UFJ銀行 東京営業部

普通口座

口座番号 : 8225155

口座名義 : ニチメン東京社友会 代表 石原啓資

振込に際しましては、振込者名欄にご自身の名前を最初に 左詰めにて 記載願います。

(ネンカイヒ、ニチメン、XXネンドカイヒ等の記載があると振込者名が通帳に記載されず、振込者が特定できません。)

**(註1) 長寿会員は年会費免除になっておりますが、長寿会員からご送金を頂いた場合は当会へのご寄付とみなし処理させていただきます。(会運営上大変助かります)**

但し、何らかの手違い等であれば事務所までご連絡下さい。

**(註2) 長寿者氏名：(50音順 敬称略)：**

青木繁行、池本俊通、石川勝美、石澤謙一、市川元久、伊藤安雄、岩居宏一、内田英三、海野敏夫、大塚静子、大西勇、大野久生、大村譲、大森啓作、河西良治、上条達雄、亀田昭、木内純一、北村俊夫、古藤彰三、近藤貞一、斉藤弥、三分一克美、新野敬一、杉浦幸雄、高間宏治、伊達邦雄、南部晴雄、西奥薫尚、橋爪覚、平岡昭三、廣瀬一彦、深尾孝、福富直明、古川熙、松尾憲一、松田實、松本忠夫、松本寿夫、丸山泰三、宮浦博、三宅葉、宮田信雄、望月昌徳、吉田孝生 以上 45名

今年から長寿者になられた方

**<< 今回、19年度からの会費が免除になります。 >>**

小林斉之介、桜井潤一、川崎恵美子、松村信男、幾島清、高田秀子、中谷善良、久保貞二、西村弘 以上 9名

今年の長寿者は、54名です。

**(註3) 2019年度(2019. 7~2020. 6) 年会費納入済会員(50音順敬称略)：**

**<< 今回は、振込不要になります。来年に、20年度分の振込をお願いいたします。 >>**

青木政和、赤城枝美、赤澤宏哉、我妻寿一、浅井正彦、浅子豊治、浅利真司、芦村八郎、荒木武雄、池田照幸、石原啓資、伊藤尚志、今井宏臣、入野英次、宇津木長、大北克利、大場禎治、岡敦彦、岡島岩男、沖田隆彦、小田有久、尾羽沢正敏、勝田泰司、鍋木順治郎、川西勲、木津奈緒子、北川敬、北川幸雄、喜多嶋雄徳、木寺厚二、京野勉、窪田厚三、倉又則夫、栗原靖幸、桑島有一、小林正史、小松繁範、古谷野和夫、佐藤統次、佐渡隆、佐野進、沢井二三一、篠塚美郷、柴田実、下浦通洋、新藤孝、菅沼利太郎、菅谷省三、杉浦俊之、鈴木譲治、陶山晃、高橋正尚、竹内可能、田所忠彦、田中弘、田村達也、土田成穂、土屋秀雄、土橋勇、富田仁、豊福清二、永井清光、中田龍彦、永田堅志郎、中谷宣英、中谷勝、中原正紀、名島憲一郎、滑川和子、西川周、西田昇、西村昭男、西村照男、庭野松三、野城恒男、野本定男、蓮沼恒郎、長谷川洋、林義人、半林亨、平石豊、廣田雄太郎、廣本昌也、藤井正之助、藤井宏憲、星合良彦、細谷和夫、秀真正彦、堀江亘、本田務、本間登志雄、前田孝、牧洋生、松村森男、松本宰子、水野英幸、溝江博三、宮尾迪子、村上匡一、村上泰生、本松巖、安井修司、安武国章、八津道夫、山岸正雄、山口一光、山邑陽一、吉海秀造、吉川浩、吉木健、若月義和、渡辺重幸、以上 112名

**(註4) 2018年10月以降で 寄付をいただいた方々**

川崎恵美子、桜井潤一、高田秀子

## 会員寄稿文

## 企業統治と国家統治 —日本の民主主義はどうあるべきか—

山 邑 陽 一

国家の目的は、時代によって変遷があったが、今では(1) 経国済民、略して経済すなわち国内から貧困をなくし貧富格差を縮めること、(2) 良き世界市民国家となって、自国と他国の平和・安寧を維持すること、の二つ(経済と外交)がもっとも大きな目的であるといえる。(1)を達成しないかぎり国民の不満が外へ出て、俗にいう「金持ち喧嘩せず」という状態にならないからである(他国よりもっと金持ちになりたいという覇権要求は論外)。

前世紀初頭の米国の経営学者キャロルは、企業の発展段階を①Be profitable、②Obey the law、③Be ethic、④Be a good corporate citizenの4つに分けており、今ではこの4つを発展段階ではなく、企業の存立条件と考える企業も増えている。この4つは企業だけでなく国家にもあてはまるだろう。その意味で、政治学・行政学は「国家の経営学である」といってよい。企業についていわれるコーポレート・ガバナンスは上記②・③に関するものであるが、国家もまたコーポレート(法人)である以上、この考え方はそのまま国家にもあてはまる。その根幹をなすものは憲法と会社法であり、その共通理念が民主主義に基づくコーポレート・ガバナンスである。

この観点から見ると、国家の財務諸表(主なものは現在および将来の期別の資金繰り表・損益計算書・貸借対照表)が概数でさえできていない日本国家のコーポレート・ガバナンス(企業統治ならぬ国家統治)の現状は、まさにボロボロであるといえる。閣僚たち・官僚たちが起こす不祥事を追及できず、彼らのだれもが責任をとらない現状は、このことを如実に物語っている。

この点は日本自身がまず率先して改めなければならない。

国の経済政策として資本主義と社会主義の対立があるが、政治理念としては民主主義と権力集中主義の対立がある。民主主義が経済政策としての資本主義と結びつきやすいのは、上に述べた理由による。資本主義が遅れて発達し、経済政策として市場経済システムを採りながらも、貧富格差の拡大を懸念して社会主義と権力集中主義を採っているのが中国の現状であるが、権力集中主義下で民主主義の重要理念の一つである基本的人権の侵害が発生し、民主主義体制の諸国から非難されている。基本的人権を尊重する議会制民主主義のもとでの社会主義経済の実現はもとより可能であり、西欧諸国にはその多くの先例があるが、日本は当面社会主義経済体制を志向していないので、未来の中国のためのお手本は現状の日米にはなく、EU内にある。

孫文の後継政権を武力でつぶしてしまった日本は大いに反省して、再びこのようなことをしないと(それをやる心も力も今の日本にないが)、現状の米国とは全く違った、資本主義+民主主義の確立した典型モデルを中国ならびに世界に示すことが必要である。これをきっちりと確立しておくならば、将来日本国民が社会主義+民主主義の組み合わせを選びたくなった時が来たとしても、混乱なくスムーズにこれを達成することができよう。

(2019. 1. 3、神戸にある孫文記念館に近い老人ホーム内の寓居にて)



## 会員寄稿文

私のソクラテス物語  
……都市国家アテナイの凋落……

竹 内 可 能

塩野七生 最後の歴史長編と銘打った「ギリシャ人の物語」三部作は、彼女の名作「ローマ人の物語」に次ぐなかなかの力作で、その衰えをしらぬ筆致に読み応えの感動をおぼえた。主題は永遠の青春を駆け抜けたとされるアレクサンダー大王にはちがいなかろうが、読んでゆくうちに私の関心はソクラテスの死のことにくぎ付けだったことを告白しておかねばならない。

塩野七生もいうように古代ギリシャの真正アテネ人として三人の偉人を挙げるとすれば、一にBC480年サラミス海戦でペルシャの大軍を撃破した将軍・政治家のテミクレス、二に同じくBC460年ごろアテナイの名政治指導者として民主政治の徹底につくしたペリクレス、三に同時代を生きた西洋哲学の開祖哲人ソクラテスがくる。

ソクラテスのことといえばその昔から耳にタコができる程聞かされてはきたが、齢80歳も過ぎて気がついてみると、その愛弟子プラトンが著した珠玉の名作といわれる「ソクラテスの弁明」はおろか、その三部作をなすと言われる「クリトン」も「パイドン」も読んだこともなかったのである。今さらながらソクラテスの言う「無知の知」を思い知らされる羽目を憾む次第だが、ここは恥を凌いで今からでも遅くはない。早速「ギリシャ人の物語」に平行させながら同じプラトンの「饗宴」をもふくめて、上述の名作にあやかることとしたのである。以下はこれらの名著の数々を読んだ上での「私のソクラテス物語」である。

## ソクラテスの妻

ソクラテスが「国家の神々を拝まず、青年を腐敗させる」という罪状で市民の代表に告発され、アテナイの牢獄で刑死したのは紀元前399年の春であった。」「パイドン」による）今から数えれば2400年以上も昔の

ことになる。

パイドンというのは人の名前で、スパルタとエリスの戦争のとき捕虜として捕えられ、アテナイで男娼として売りに出されているところをソクラテスの目に留まり、その親友クリトンが身代金を肩代わりして自由の身になったといわれる男だ。後にソクラテスのグループに参加して哲学の道を歩んだという、ソクラテス心酔者の一人である。プラトン著す「パイドン」は主題はソクラテスが信じる「靈魂の不滅」だが、同時に彼の刑死の最後まで立ち会ったといわれるパイドンの証言を基にして、往時の親友たちが対話形式で語る哲人ソクラテス臨終の物語でもある。

この書の冒頭でパイドンが述べるソクラテス刑死の朝の獄中の様子は克明でやるせない。こればかりは原文の翻訳（岩田靖夫訳）をそのまま下記にお借りしたい。

「……この日に（刑死の日 註）先立つ日々においても、いつも、私も他の人々もソクラテスの下に通うのを常としていました。あの裁判が行われた裁判所のところへ朝早く集まってはね。それは牢獄の近くにあったからです。われわれはいつも、牢獄の門が開かれるまで、お互いに話をしながら待っていました。門はあまり早くは開かれなかったのです。門が開くと、われわれは中へ入ってソクラテスのもとへ行き、たいていはあの方といっしょに一日中を過ごしたのです。とくにあの日は、われわれはいつもより早く集まりました。……………そこで、われわれは出来るだけ早くいつもの場所へくるようにと、お互いに知らせ合っていたのです。われわれが牢獄へ着くと、いつもはわれわれを入れてくれる門番が出てきて、待っているようにと言いました。かれが命ずるまでは、中へはいらないように、と。「というのは、いま11人の刑務委

員がソクラテスの鎖を解いていて、今日かれは死ななければならない、という命令を告げているところだからです」とかれは言いました。しかし、それほど長い間もおかずにかれはやって来て、われわれに入ってもよいと告げました。中へ入ると、いましがた鎖から解かれたソクラテスと、クサンティッペ（かれの妻 註）が、むろんご存じでしょう、あの方の子どもを抱いて側に座っているのが、見えました。クサンティッペはわれわれを見ると、大声をあげて泣き、女たちがよく言うようなことを言いました。「ああ、ソクラテス、いまが最後なのですね、この親しい方々があなたに話かけるのも」。するとソクラテスはクリトンの方を見てこう言いました。「クリトン、だれかこれを家へ連れて行ってくれるとよいのだが。（註 クリトンはソクラテスの最も信頼厚い竹馬の友）

こうして、大声で泣き叫び胸を打って悲しむクサンティッペを、クリトンの家の者たちが連れ去ったのです。……………」

ソクラテスが終生その哲学を通じて追い求めていたものは、強烈ともいえる「主知主義」と「理性中心主義」に根差した「徳」（アレテー）の実現であった。畢竟するに知行一致ならぬ「知徳一致」こそは、人間の最大の幸福のもとであることを彼は信じて疑うことはなかった。因みに「主知主義」とは何かというに今日この解釈は難しいが、私にいわせればこんなふうに理解されようか。

つまりは都市国家アテナイが経験したような繁栄、即ち地中海の海上権制覇と民主政と奴隷制がもたらしたものの、それが有り余る富と自由と、そして閑暇だったことはいうまでもない。そこにソクラテスがいうところの、(物事の本質を)「知る」ということを至上主義として、これを人生最高の幸福と考えた独特の哲学が生まれたのではないか。

それはソクラテスが刑死に服さんとする瞬間まで、泰然自若として、わが身を持した姿のなかにも見て取れる。それにしてはひかえる妻のクサンティッペの愁嘆場の不

幸との対比が気にはなる。のっけから「パイドン」の話になってしまったのは、私の真っ先の関心はその妻クサンティッペの愁傷にばかり気が留まったからでもあるが、そればかりではない。ソクラテスの刑死に至る真相（秘密）に迫ろうとするとき、「パイドン」は大変参考になることに気がついたからであるが、そのことは後述するをしたい。

### アテナイの凋落とアルキビアデスという男

いかなる歴史事件にしる、ましてソクラテスの刑死事件ともなれば、それなりの歴史的な背景（必然性）はあるものだ。この事件も都市国家アテナイの凋落を措いてその原因を語ることはできない。

塩野七生は先述のように三人の古代真正アテネ人としてテミストクレスとペリクレス、そしてソクラテスを挙げたものだが、私にいわせればもう一人、これとは真逆の真正悪徳人アルキビアデスを加えて、たかだか一世紀（紀元前5世紀）にわたった都市国家アテナイの、四人男が語る栄枯盛衰の歴史と見立てたら如何なものかと思ったりもする。そのアルキビアデスだが、彼こそはアテナイ凋落のまごうことなき歴史的眞犯人（張本人）と見なされているからである。そればかりではない。何とその彼こそは曾てソクラテス最愛の愛弟子だったのである。ここがまたソクラテスの死の真相を読みとることのできる肝心な部分である。

もうすこしアルキビアデスのことを調べて見よう。アテナイの民主政の旗手だった先述のペリクレスの出自は高貴な名門中の名門だったとされるが、アルキビアデスもまた同門の出身だったという。ペリクレスがペロポネソス戦争の途中不慮の病死を上げていらい（BC429）、アルキビアデスがアテナイの政界に頭角を現してきたのはそれだけではない。彼は才能、容姿、人望ともに傑出した人物とされ、徳にせよ悪徳にせよ、彼の右にでる者はいないとまで言われていたらしい。しかしその彼はまた幼少のころから傲慢・放縦で、自分より劣ると思われる他者を見下し、自分より優れている

と判断した人物には並々ならぬ尊敬と情熱を注いだ。

それゆえ師匠に当たるソクラテスにおいては、かれは心酔のあまりソクラテスが他者を見ただけで嫉妬を覚える程だったと言われている。その心酔ぶりはプラトンの「饗宴」にも詳述されている。たとえば彼はペリクレスの演説を聴いてその巧妙さに感心させられるが、心を乱されることまではない。しかしソクラテスの話を聴いた後では涙があふれてとまらなくなる、とまで述懐している。もっともアルキビアデスが同性愛者だったこともつとに有名な話で、「饗宴」にはソクラテスに秋波を送るものの、見事に拒まれる場面などが描かれている。

しかし政界や戦場となると、彼の傲慢と放縦は都市国家アテナイに重大な禍をもたらした、彼にはそのために政敵が多過ぎたのである。ペロポネソス戦争での主戦論も、彼が主導したシチリア島遠征も結局は思うにまかせず、とどのつまりは、政敵からヘルメース像破壊事件の容疑者として遠征先から帰国命令を下される始末。しかもあろうことか、このとき帰国命令に背いて不倶戴天の敵国スパルタに亡命したのだ。さなきだに彼はそのスパルタに対してシチリア島の防衛を進言するに及ぶ。支離滅裂とはこのことであろう。

アルキビアデスの進言によるスパルタ軍のシチリア島派遣で、アテナイ遠征軍は完全崩壊して降伏、おまけに勝ち誇るシチリア軍（シラクサ）は、ペロポネソス戦争に参戦でスパルタ支援にまわる。アテナイ凋落の始まりであった。そのアルキビアデスの不始末の絶頂は、こともあろうにスパルタの王妃を寝取ってしまったことに極まれる。そのため今度はスパルタを追われ、ペルシャ亡命を余儀なくされるのだが、事ここに至るとこれはもう正気な沙汰ではない。が、その後一旦は古巣のアテナイに凱旋で迎えられるというような、破天荒な後日談もあるがそれはもうやめにしておこう。結局彼の最期は終の亡命先トラキアでスパルタの差し金による暗殺であった。

アルキビアデスによる都市国家アテナイ

の、昏い崩落の物語ばかり並べ立てた。ペリクレスによる世界史的な金字塔の民主政も、市民によって享受されたのは半世紀にも満たない短期間だったといわれるが、私の感慨は別のところにある。そんな市民のなかに、哲学者ソクラテスが含まれていたこと、その彼がアテナイ民主政空前の繁栄も凋落も、ともに目の当たりにしていたことであった。

更には、民主政とは言いつつも実際には、政治家ペリクレスただ一人によって、アテナイが統治されていたという事も注目に値しよう。民主主義のアポーリアは今も昔も変わるところはないといえる。

### ソクラテスの裁判と弁明

かくて、シチリア遠征軍が完膚なきまでの敗北を喫し、あまつさえ30年も闘ってきたペロポネソス戦争でスパルタに敗れることとなったとき（BC404年）、都市国家アテナイの市民の心を抉ったものは何だったか。茫然自失と自信喪失、そしてその後続いたのが怨念だったとしても無理はない。横溢する富と自由、そして民主政を誇ったアテナイには、繁栄は二度と復帰することはなかったからである。

しかしその怨念を晴らすにはアルキビアデスはもういない。市民の目が彼の恩師ソクラテスに向かったのは自然の流れといってもよかったのではないか。市民から選ばれたソクラテスの告発人が挙げた訴因の一つに、青年の腐敗を招いたとあるのは、まさにアルキビアデスの政治指導や私生活の無軌道ぶりを指しているのである。

2400年もさかのぼるその昔、ソクラテス哲学の後継者たるを自認したプラトンは「ソクラテスの弁明」のなかで、渾身の筆致をもってソクラテスの弁明再現を試みている。かれはソクラテス裁判の一部始終を傍聴していたからであろう。同じプラトンの創作になる力作「饗宴」も、ソクラテス弁明のための、あえてアルキビアデスを擁護せんとする力強い論述が注目される。

私の推察によればの話だが、民主政下のアテナイにおいてソクラテスが、とりわけ

政界を目指そうとする若き俊秀たちの間で、憧れの的であったのは、ひとえに、彼ソクラテスの凄味を効かせた弁論術ではなかったか。民主政を牛耳ろうとする者にとって、優れた弁論こそ唯一つの武器であったことは、古今東西云うを俟たない。そのことはプラトンの「ソクラテスの弁明」や「饗宴」を読んでいても、ひしひしと読者の耳に響いてくるように思われるからである。

もうひとつ、ソクラテスの弁明のために言い添えておきたいことがある。それは彼がアテネの街角という街角で市民の誰彼となく、巧みな弁論術で相手方の無知を暴きたてることを常とはしたが、決して政治の世界に（民主政だろうが寡頭制であろうが）足を踏み入れたことはなかったということである。

しかし執拗且つは挑発的なソクラテス自身による弁明のためでもあったろうが、結局この裁判の最終判決はといえば、ソクラテスへの死刑の宣告であった。最初行われた裁判は有罪か無罪を問うものだったが、市民から選ばれた裁判官500人のうち250人が有罪に、220人が無罪、30人が白票という結果であった。しかしつづいて行われた投票は量刑を死刑とするか否かであったが、今度は死刑が360票、無罪が140票だったといわれる。

実をいえば、アテナイの市民裁判官として、その多くが欲していたものは死刑などといった極刑ではなく、ソクラテスの譲歩とか哀願によって、罰金刑とか重くとも国外追放止まりで済ますことにあったことは常識内だったらしい。にもかかわらず彼は頑としてこれを受け付けなかった。訴因の青年を腐敗させたという罪も、都市国家アテナイ公認の神々を信じない罪に対しても、真っ向から弁明反論してやまぬばかりか、死をも恐れぬ不退転の論陣を張ったからたまらない。有罪票の時よりも死刑票が増えた理由はここにあったのだ。

一方、獄中の彼の下には連日彼の信奉者や心酔者が詰めかけていたことは、上述プラトン著す「クリトン」でも見受けられる。

クリトンは明日は刑の実施という前の日の晩まで、ソクラテスに脱獄を勧め国外逃亡を説得しようとしているのだが、ソクラテスはこれも頑としてはねつけている。クリトンは先述のようにソクラテス幼少時代から最も信頼が厚く、財力も少なからずの男だったらしいから、獄吏の籠絡などはお手のものだったことが覗かれて切ない。

しかしそのクリトンもまたソクラテスから、相手が不正だからといって自分もまた不正をもって対抗しようとすることの愚を説かれ、更には親の代から世話になってきた都市国家アテナイに対する恩義に報いるには、悪法といえどもアテナイの法に殉じて従容として死をえらぶと、逆に説き伏されてしまうのだった。「クリトン」にはこの辺の情景が細やかに描かれている。

### ソクラテスの死と靈魂の不滅

最後になるが、先述したようにプラトンの著す「パイドン」について、もう一度触れることにしたい。私はこの著作の中に、ソクラテスが裁判で告発者たちから非難されることになる、彼の神々に対する不信心を解明する鍵が隠されているように思うからである。

ソクラテスによる弁明にもかかわらず、この裁判官たちの判断を硬化させた理由を、もしも彼の弁明のときの頑なな態度だけには求められないとすれば、という但し書き付での話だが、その理由としてソクラテス自身の神々に対する不信心は非難されても仕方ない、というのが私の考え方である。

何故かというに、私はまず「ソクラテスの弁明」のなかでも彼が強弁している Daimonion（ダイモニオン）なる神々（神霊とも）についての、得体の不確かな弁明を挙げる。私の想像では、この神のもととはといえば英語の Demon（魔神とか鬼神にあたる）ではないかと考えられるが、本当のところは今日なお学者や研究者によっても要領をえない。確かなことといえば、ソクラテスがこの神を信頼しきっていたことである。が、2400年も以前にこんな神を信じている者は、都市国家アテナイの市民の中に

は独りもいなかったのではないか。裁判官の多くがこの問題に関する限り、ソクラテスに強い不審を覚えたに違いない。

正直な話、長い間私自身もソクラテスが神について一体どう考えていたのか分からなかった。がしかし、「パイドン」のなかで靈魂の不滅についてのソクラテスの言説を読んでいるうちに、私は突然霧が晴れてきたと思った。

つまり、云うならばソクラテスは、アテナイの市民が信じていた神々よりもその前に、己の靈魂とその不滅を固く信じていたことを突き止めた、というのが率直な私の発見であった。

ソクラテスという人物を評するに、宗教的神秘主義者の側面を云う研究者は多い。無論その彼が徹底した主知主義者であり哲学者であり、同時にまた現実的な合理主義者である側面を認めたくえでの人物評であろう。傑作「パイドン」は、数学者ピタゴラスに発するピタゴラス派の哲学者たちによる対話編といえる。当時のピタゴラス派といえば、イタリア半島を根拠地として靈魂の輪廻転生を説く強大なピタゴラス教団のことであった。

ソクラテスが靈魂の輪廻転生まで信じたかどうかは確かでないが、彼がその不滅を信じていたことは「パイドン」によって疑いをさし挟まない。彼はピタゴラスよろしく数学にも、アナキサゴラスよろしく天文学にも、更にはその無神論にさえ通暁してはいただろうが、彼の行き着いた先は神秘的な靈魂の世界だったにちがいない。

彼はそこに哲学（主知主義と理知主義）の至福を感じ取っていたから、ことさら神々の加護や救済を求める余地はなかったと考えられる。しかし、だからと言ってソクラテスが神々を信じなかったといえばそれはウソになる。彼は時々神託を求めていたことで知られているが、その時彼が天上の神々との間に橋渡しを依頼したのが、前述の神々 Daimonion（Daimoniaの複数形）ではなかったかと私は考えている。つまりはこれがもし demon（鬼神）なら、古代ギリシャでも低位の神々として存在は認めら

れていたというし、不思議なことにわが国でも、「鬼」は卑近な神として、親が小さい子供のいたずらなどを諫めるときなどによく使われてきた。

しかし繰り返しになるが、天上にまします高位の神々にたいしても、彼が求めていたものは決して国家や個人の加護とか救済のような大げさなご利益ではなかった。彼はひたすら個人的に正しいこと、善いこと、美しいことに専念し、その実現にまい進していたから、時には正邪・善悪・美醜や「徳」について己れ靈魂としての疑問を感じるようなことがあったのではないか。神託は、そんなときの彼が天上の神々に求めた実際的な回答の一種ではなかったかとも思える。以上は彼に対する神託の多くが諫止的なものだった、といわれるところからの私の想像である。

天上にまします神々についてソクラテスは多くを語らない。確かなことは、彼が信じる神々は、アテナイの市民が信じたアクロポリスに祀る守護神をはじめとするアテナイ伝来の神々ではなかったことだ。それに彼は神々にも人間と同じく、善い神と悪い神、賢い神と愚かな神がいることを見分けていた。それは「パイドン」のなかで、彼の臨終に居合わせた信奉者や弟子の者に告げる、辞世の挨拶にもうかがえる。彼は言う「冥府では、この世を支配する神々とは別の賢くて善い神々の下に行くだろう」と。

これがキリスト生誕より400年もの昔、ソクラテス昇天のときの（古代ギリシアの）、典型的な多神教の風景ではなかったかに思える。そして彼はまた辞世に際して己の靈魂の不滅を篤く説き起こす。死こそは靈魂と肉体の分離であり、靈魂浄化のときであること、そしてこれこそがまさに彼の本望だったことを告げた後、従容として、毒人参入りの杯を口にしたのだった。

死に臨んでなほ、ソクラテスが持すことのできた驚くべきこの泰然自若こそは、彼が信じていたものが、神々はともかくとして、畢竟するに、己の靈魂の不滅だったことを如実に示している。

## 会員寄稿文

# 「ミステリ小説断想」(9)

福 富 直 明

### ・現地調査

小説の中では登場人物の住所や事件の起きた場所を、「港区西麻布3丁目XX番地」とぼかすのをよく見かける。ぼかさないと、その番地には50年住んでいるが、そんな屋敷はないぞと言った手紙を出版社に送ってくる読者がいるという。電話番号も、例えば3453-2356と出てくると、一応電話してみる人が結構いるらしい。だから、実在の番地や建物との合致を避けるための工夫が必要になる。他方、ホームズの住むベーカー・ストリート221Bを始め、実在の番地を平気で使う作家も意外に多い。米国の作家Robert Daleyはニューヨーク・タイムズの欧州駐在員だったが、どういう経緯か、ニューヨーク市警の副本部長になり、1972年に退職して作家に転身し、“Year of the Dragon”(1981)という小説を書いた。この小説の中で、チャイナタウンのモット・ストリートの61番で賭博が行われているとの情報が入って、刑事が張り込む。日本では一つの番地は何軒もある区域の番号だが、米国だと建物一戸ずつに番号が付いている。モット・ストリートへ現地調査に行ってみたら、61番の建物は実在した。リトル・イタリーのマルベリー・ストリートの167番の食堂で、中国系マフィアとシシリア系マフィアが縄張り協定の会談を行なう。そこにも行ってみたら、本当にイタリア・レストランがあったのには驚いた。こんなに、はっきりアドレスを出してよいものか。

ニューヨークにDiamond Districtと呼ばれる一画がある。南北に平行して走る5th Avenueと6th Avenue(=Avenue of the Americas)にはさまれたWest 47th Streetの一ブロックで、この二百数十メートルの道路の両側に宝石店がずらりと並ん

でいる。Thomas Chastinの1981年の小説“The Diamond Exchange”(邦題『16分署乗取り』)によると、世界のダイヤモンドの半分がここに集まっていたという。最近では米国に輸入されるダイヤの90%がここを通過し、年商240億ドルとのことだ。1980年代にニチメンのニューヨークの店のあったStevens TowerはW 47th Streetと6th Ave.との角にあったから、Diamond Districtとは本当に目と鼻の距離だったが、言うまでもなく、買い物に行くゆとりはなかった。“W 47th St”の道路標識と並んで“Diamond & Jewelry Row”という通称の標識も出ていた。宝石店というと、銀座のティファニー、ブルガリ、グッチのような重厚荘厳な洋飾店の店構えを想像するかもしれないが、Districtに並ぶ店舗の雰囲気はむしろアメ横に近く、高級感が乏しい。ネットを見たら、まるで第三世界の蚤の市だとか巨大のサメのいる水槽みたいだと酷評した記事が載っていた。ここで買ったら安いような錯覚があるが、店員たちは強引で傲慢で嘘八百、ほかの地域の宝石店で買った方が安全だと書いた記事もあった。

Chastinが書いたのは、強盗団が47th Streetの91番地、93番地、95番地の宝石店を襲って、99番地のビルに逃げ込み、そこで消えてしまうストーリーだ。現地調査に行ってみると最初の三つの番号のビルは見つかった。しかし、99番地だけは見つからず、狐につままれた感じだった。このストリートは97番地で終わっていたのだ。Chastinは実在の番地の隣に架空のビル一軒建てたことになる。

Dashiell Hammettの『マルタの鷹』(1930)はハードボイルド・ミステリの金字塔的古典で、いままでに5回翻訳され、(もっとも

この作家の“Red Harvest”は7種類の翻訳が出ている)映画にもなった。ミステリ小説の場合、誰が犯人なのか、未読の読者にしゃべってはいけないという不文律がある。図書館で借りた本の冒頭の登場人物リストに赤ペンでこれが犯人と書きこんだのがあったとか。書評や研究書を書くにしても、犯人あるいはそれに関連する事物に触れずに書こうとすると歯切れが悪くなってしまう。私が「詳細に触れています」と前書きして中身をばらしたcritical essay集を書いたら、編集者は“掟破りのエッセイ”という副題を付けてくれた。

ハメットは『マルタの鷹』の中でサンフランシスコの市内を細かく描いた。第2章で主人公のサム・スペードの相棒のマイルズ・アーチャーがダウンタウンのBurritt Alleyという実在の袋小路で射殺される。誰が犯人なのか、最終章である第20章で読者はやっと知るのだが、このBurritt Alleyには市が作った真鍮の銘板が掲げられており、銘板には、“ON APPROXIMATELY THIS SPOT MILES ARCHER, PARTNER OF SAM SPADE, WAS DONE IN BY BRIGID O’ SHAUGHNESSY”と刻まれている。(done inは“ばらされた”の意味の俗語)

つまり、犯人の名前をはっきり書いてしまっているのだ。大変な掟破りだが、なにせ古典だし、わざわざこの場所まで足を運ぶ人は、とくに犯人の名前を知っているはずだから、問題にならないわけだ。

直木賞作家の黒川博行さんの作品には本当にありそうな住所が続々と出てくる。例えば、“和歌山市釘貫丁5-3-16-B-604”。いかにも実在しそうなアドレスだが、調べてみたら、東釘貫丁、西釘貫丁、北釘貫丁はあるが、釘貫丁はなかった。“奈良県北葛城郡河合町川坊167-10”というのは、河合町には川坊という地名は存在せず、代わりに川合と山坊があった。作家はいろいろ工夫しておられる。

## ・ニューヨークの風景

NYに駐在した期間は短かったが、妙なことを何度か目にした。

カーネギーホール正面の歩道に三脚の譜台を立てて、ヴァイオリンを弾いている若い女を見かけた。たしかに有名な指揮者や音楽家が通りそうな場所だから、演奏を聴いて貰えるチャンスがあるかもしれない。立ち止まって耳を傾ける人はいなかったが、粛々と弾いている。照れもせずにこんなパフォーマンスをやったのける度胸に感心した。ふるさとに帰ったら、あたし、カーネギーホールで演奏したのよと言うのかなと思った。

グランドセントラルから市内に行く地下鉄に乗っていたら、若い男が乗客に向かって喋り始めた。ぼくは仕事が見つからず、金がありません。ヤク中でもアル中でもないし、犯罪者でもありません。5セントか10セント、頂戴できれば助かります。そして視線を下に向けたまま、乗客の間を通りに抜けて、隣の車両に移って行った。彼の態度で印象的だったのは、もの欲しげに乗客の顔をきょろきょろ見回すでもなく、下を向いたまま誰とも目をあわさず、静かに去っていったことだ。乗客たちも彼を無視した。

人通りの多いブロードウェイの歩道の地べたにくたびれた顔の若い女が横坐到り座って、うしろに段ボールを据えた看板を置いている。看板にはマーキングペンで、「ボーイフレンドとカリフォルニアから来ました。でも、彼が有り金を全部持ってどこかに消えてしまいました。わたしはカリフォルニアに帰りたい。誰か旅費をください。ただし、体は売りません」と書いてあった。

同じブロードウェイで、同じような段ボールの看板を掲げた男を見たことがある。浅黒い角ばった顔。西部劇でよく見かけたインディアン、というのは差別語らしいが、つまり先住民の男だ。目が会っても、にこりともせず、むしろ傲然とした目つきで見

返してくる。50歳くらいか。彼の看板には「I want to go back to Arizona」とだけ書いてあった。おれの顔を見れば、何が望みか分かるはずだと言っている。

食糧部のS君らと日系のラーメン屋に行った。食べ終えて代金とチップをテーブルに置いて出ようとしたら、日本人の女性店員が、「この店ではチップは15%いただくことになってますけど」と言う。チップが

少ないと言ってるのだ。ケチったつもりはないのに、彼女にとって15%は当然の権利の主張だったようだ。冷たい不愛想な口調が記憶に残る。支払って、しらけた気分で店を出た。

あのヴァイオリン弾きはチャンスをつかみ、若者は朝飯を食べ、カリフォルニア娘はカリフォルニアへ、先住民はアリゾナへ帰っただろうか。

Nmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnmnm

## 会員寄稿文

### ニュージーランドの旅

入江隆史

2月の初めに1週間の予定でニュージーランドへ旅行をしてきました。

ゆったりとした時の流れと美味しい空気といっさい手を加えていない美味しい水に感激しながら、旅をして来ましたが、南島のテカポ湖の全天を埋め尽くす星々や天の川と南十字星と数万光年に渡る星の光を見て感動しましたので皆さんに紹介しようと思ひ、投稿をさせて頂きました。

驚いたのは、隣の人間が誰か全く分からない真っ暗闇にも関わらず、添付した写真を見て頂きたいのですが、超高感度カメラ

で撮影した写真で人々の顔がはっきりと天の川の背景とともに映っている事です。

また、現地での星の解説者がレーザー装置を使って対象の星にポインターを当てて分かり易く説明するのに、驚きました。

約1時間ほどの星空観賞の間に3つの流れ星を見ました。

場所は行かれた方も多いと思いますが、マウントジョン天文台です。

もしニュージーランドに行かれる機会がありましたら、是非行って頂きたいと思ひます。

天の川の星々と共に





他にはマウントクック国立公園のフッカー・ヴァレーから見る白い雪を被ったマウントクック山の勇姿と世界遺産のミルフォードサウンドをお勧めします。

氷河の浸食で生まれた神秘的なフィヨールドで、両側に千メートル級の山々が連なっています。

マウントクック 高さ3,724m



ミルフォードサウンド



## 会員寄稿文

# ヴォランティアの州 ~ Tennessee

浜 地 道 雄

Jack Daniel's とはよく知られた米国のバーボン・ウイスキーだ。

そのラベルには Tennessee WHISKEY (スコッチ whisky とはスペルが違う)、LYNCHBURG TENN とある。Tenn とは即ち Tennessee 州でその Moore 郡 Lynchburg 町が創業本社所在地だ。ところが、そこは dry county、即ち 1920 年実施の禁酒法が 1933 年に廃止されて以後も実施されている。

世界的ブランドのウイスキーが禁酒地域で作られてる。そんな不思議な(?)話を聞いたのは某年、同州の名門 Vanderbilt 大学(ナッシュビル)で頼まれた「日米ビジネス」講演で(冷)汗をかいて、事後の懇親会でだった。

Bourbon 杯を重ねながら、そこでもう一つ「え!」と思った話題が「テネシー州は State of Volunteer」。

同州ではヴォランティア活動が盛んなのかと思ったら、さにあらず。Volunteer とは「義勇(兵)」。1812年の対英国戦争で、テネシーからの数千人の志願兵が活躍。特にニューオーリンズでの戦いで数少ない勝利をもたらしたことが起源。また、対メキシコの戦いでも 2,800 人の州政府の要請に対して 30,000 の応募があった由。

Volunteer とは、ものの本によると、聖書のラテン語が語源。

ヴェルディのミサ曲 Gloria の通り、♪ Et in terra 地 pax 平和 hominibus 人間 bonae 良い voluntatis 喜び♪。「地と善意の人々には平和」(ルカ伝 2-14)。

その動詞 volo (ヴォロ) は「欲する」「求める」「願う」の意。

十字軍の際には「神の意思に従う人々」を意味し、徴兵 drafts とは対称の関係にある。



さて、2020年の東京オリンピック・パラリンピックについては、大会ボランティア・都市ボランティアを合わせて10万人もの募集をするよし。フルタイム勤務に近い活動、高スキル・知識が求められ、交通費や宿の手配・費用など個人負担という条件に対して「Black」との批判も出てるようだ。

1948年にイギリスで開催されたロンドン五輪がオリンピックボランティアの始まりであり、2012年の夏季ロンドン大会では応募してきた24万人の中から約7万人が参加している。2018年の冬季平昌大会では1万8千人のボランティアが参加。日本からは外国語大学の学生など2017年9月の研修に参加した約280人から語学力審査に合格した約100人が参加した。

筆者が直接聞いたところでも、世界の一流人との直接コミュニケーションをはじめ、現地の老若男女と交流したことを良い経験が出来たと喜んでいる。大会を問題続きとした報道もあったが、ボランティアスタッフ



英雄 JEANNE D'ARC の火あぶり、NAPOLEON の島流しと毒殺（いまだに多くのフランス人は毒殺を信じている）などを行ったイギリスを心底敵対視する風潮が感じられるし、イギリスよりあれほどひどい目にあわされているドイツにより親しさを持っているのが多くのフランス国民でないかと私は感じています。

閑話休題ではありますが、両国に住んだことで両国の国民、庶民感覚からするといがみ合いの方が、手を携え一緒に歩む姿より納得の行く数々の事象を挙げられます。例えば、食文化では、「食べるために生きる」フランスと「生きるために食べる」イギリスの違い、これは、みなさんも納得行くことですよ（ところで日本人はどちらでしょうかね？）。

蛙とカタツムリを食す野蛮人のフランス人、真っ黒こげの STEAK を好む味音痴のイギリス人と互いをけなし、coffee 嗜好のフランスと TEA が圧倒するイギリス、右側通行と左側通行、500m 置きにパン屋のあるフランスと同じ間隔で DRUG STORE のあるイギリス。慇懃無礼 (gentleman) の国のイギリスと気障と伊達を好む (GENTIL-HOMME) のフランス、HUMOUR のイギリスと ESPRIT のフランスと違いを列挙すれば切りないが、庶民感覚では（下世話な話で申し訳ないが）避妊具をフランスでは、「CAPOTE ANGLAISE」（兵士のコート）、イギリスでは「FRENCH LETTER と称し相手を侮辱するような単語を生んでいます。この辺が庶民の互いの国への気持ちを表しているのではと思います。

もう一つの例ですが、フランスの地中海に面し FOS SUR MER という町があります。ここに、フランスの新しい製鉄所が開かれ高炉で使われる耐火煉瓦の入札があり、わたくしも日本のレンガを担いで応札しました。フランス、ドイツ、イギリスのレンガ会社

が入札に応じました。結果は、日本が一番札、イギリスが二番札となりましたが、製鉄側は、ドイツを選びました。日本とイギリスに対する落札できなかった理由説明はいとも明確で「OUT OF CONTINENT」の SUPPLIER よりは買わないというものでした。イギリス人の SALES MAN は日本を大陸外として外すのはわかるがどうしてイギリスがヨーロッパ外なのだと憤慨し、今後フランスの鋼材は買わないように上司に説得すると息巻いていましたが、これなどはまさに両国の感情であって、理性の欠けらもないが当然と受け止められる感覚です。

以上の例を見ることで皆さん、この両国の国民や庶民の感覚には、手を携え共同歩調をとることに反発するというより単に一緒になどなる気ないと言った感覚的衝動が勝りあの国民選挙の結果となったことをお判りになっていただけたと思いますがいかがですか？

特に、最近のヨーロッパは極右の台頭が目立ち、フランスでは「黄色ジャケット」を着た庶民が年末より毎週終末デモ行進をして大統領退陣を求める騒ぎが続いています。一方のイギリスは庶民の力をないがしろにし、KYAMERON 前首相は庶民のヨーロッパに対する「感情」を読み違いあの国民選挙の結果を生んでしまいました。こうした事態は、おそらく数世紀にもわたる両国における一握りのエリート層に対する教育の付けでないかと思っています。イギリスは OXFORD や CAMBRIDGE 出身の政治家が長年政権を担い、フランスは ENA（高等行政学院）出身者が政権 TOP に着くことが多く、庶民、一般市民の声に耳をかさず、あるいは、庶民の声を無視してきた結果と言えると思います。

すなわち、最終的には大衆を無視したことの恐ろしさでありフランスはフランス革



## 11月21日(火) 香港島・ビクトリアピーク(552m)・西高山(494m)

香港を訪れた人の多くが行く「ビクトリア・ピーク」:本名は「大平山」、ケーブル山上駅付近は単なる「山頂廣場」。

標高552mの山頂へは廣場から舗装道路をガラガラと1時間ほど歩いて登ってやっと山頂と思しき展望台に着く。

人影少なく、本来の山頂は鉄塔などが

あって立入禁止、少し足伸ばし展望台へ、絶景の連続である。

大平山展望台の西方にある西高山へ、ランチ済ませ600段ほどの急階段を登った頂上からは、ランタオ島、香港島南岸のリゾートエリア、南シナ海など、しばし下山を忘れるほど絶景を楽しんだ。



西高山よりビクトリアピークを望む

## 11月22日(水) 鳳凰山(934m)・天壇大佛(標高約450m)

地下鉄で空港がある「ランタオ島」の東涌駅へ、5,7キロのロープウェイで昆坪駅へ、大仏を横目に登山口へ、標高934mの

頂上まで標高差約500m、本格的な登山だ。石段が続き、頂上手前は岩場で急登だ。



二峰の右(奥)が鳳凰山山頂(登山口からの標高差約500m)



かなりの急登、こんな登り坂が頂上まで続く



山頂にて記念撮影



優しいお顔の天壇大佛

\*香港人、外国人観光客(中国人が大半)にとって人気のある大仏なので、ロープウェイ東涌駅、昆坪駅ともいずれも2時間ほどゴンドラ待ちを余儀なくされた。中には中国人と見られる顔パスのズルもいた。

\*ロープウェイ索道の真下に歩行者用登山道あり、標高差約400m、約6キロ。次回は歩こうかな??

11月23日(木)休日:市内散策、羅湖、深圳、黄大仙廟など ⇒ デイナーは「鼎泰豊」で台湾料理

### 11月24日(金) 大帽山 (957m)

今日は香港最高峰にチャレンジだ!

地下鉄「荃湾」駅⇒路線バス⇒郊野公園バス停⇒登山口⇒石段・舗装道(工事用車両+歩行者)⇒ゆっくりあるいて約3時間⇒山頂着

但し、山頂とは名ばかりで各種アンテナ、レーダーで立入禁止。最高峰登頂達成感は7割ぐらい!

集合写真は残念ながら、レーダーサイトゲート前と相成った。

- ・ 標高差(登山口～頂上)は約780mときつい!
- ・ 緩やかな登りが続き、往復約10<sup>キロ</sup>。



### 11月25日(土) ライオンロック(獅子山)

確かにライオンに似ている。西を向いてどっしりと坐っている。尻尾の方からが一般登山者のルート。



ロッククライマーの人気スポットでもある。



ライオンの鼻先、押すな! 押すな! の大渋滞

\* 標高495m、地下鉄黄大仙駅から急こう配の舗装路、石段など約2時間半で頂上に着く。遮るものが無い360°の大パノラマ、真下にマンション群、西に一昨日登った大帽山、南側に香港島の山並みと摩天楼群、さらに、世界一危険な空港と言われた旧啓徳国際空港の跡地。

\* 旧啓徳国際空港 :

⇒撮影時は小雨で見づらいが、先端部分は現在「豪華客船ターミナル」となっている。

⇒香港駐在者、東南アジア方面への赴任時、帰国時にこの空港を利用された方々には懐かしさが・・・筆者も1971年のジャカルタ赴任時以降、数回往復したが全てここで乗換えており、怖さを鮮明に記憶。

⇒全フライトがビル群側からの着陸アプローチなので、機窓からビル屋上の「洗濯もの」の色柄が見えたとか、急ブレーキで思わず足を踏ん張ったとか、停まったのは滑走路ギリギリだったとか



## 会員寄稿文

## 『一帯一路と米中貿易戦争』

中川 十郎



## I. 一帯一路 (BRI) と日本の対応

1. BRIは2013年、中国習近平主席が打ち出した、中国の東からユーラシア大陸を西へと物流インフラを構築する「陸のシルクロード」と海の物流網「21世紀海のシルクロード」を構築しようとする21世紀の巨大プロジェクトだ。この一帯一路の沿線国は60数カ国、世界人口の60%の40億人、世界国民総生産 (GDP) の30%、貿易額の30%、アフリカを含めると地球の陸地面積の50%を占める巨大貿易圏が誕生しつつある。

未来予測研究者として有名な米国のユーラシアグループ代表、イアンブレマー氏は「今日世界で未来戦略を有しているのはヨーロッパでも米国でも日本でもない、それは唯一中国だ」と喝破。世界の未来を見据えた中国のBRIを意識した言葉だと思われる。

筆者は過去20数年間の中央アジアの上海協力機構 (SCO = 中国、ロシア、インド、パキスタン、カザフスタン他8か国で構成) などの研究から判断し、BRIはこれまでの20年間のSCOでのメンバー関係国の協力、さらに過去にさかのぼる

と、張騫の中央アジアとの結びつき、紀元前後パクスロマーナと交易があった漢、隋、唐と交易、古代シルクロードを經由し交流があったペルシア、西アジア。1200年代にモンゴル帝国のジンギスカンがユーラシア大陸で世界最大版図の大帝国を築き、東西交易と文化交流に邁進した陸のシルクロードのDNA。さらには1400年代の明の永楽帝時代の「鄭和大艦隊」の南シナ海、インド洋、アラビア、アフリカとの海上交易にBRIの淵源があるように思われる。

2. 欧米の地政学者 (英国マッキンダーのユーラシア・ハートランド (中核) 理論)、米国スパイクマンのリムランド (周

序 I: 海と陸のシルクロード



序 II: “六つの経済回廊”





辺) 理論や、カーター大統領元補佐官ブレジンスキーの(ユーラシア西、中央、南、東のチェス盤理論)は「ユーラシアを制する者が世界を制する」と喝破。かかる観点からBRIを理解する必要があるように思われる。

筆者の過去30数年(うち20年は海外に駐在。60数カ国での市場開拓・貿易業務に従事)のニチメンでの国際ビジネス経験から判断し、BRIは上記のような中国の過去からの長年の海外交易のDNAを受け継ぎ、中国が世界最大版図のユーラシア大陸を結節する21世紀の野心的な広域経済圏構想であると思われる。

700年代の遣隋使、遣唐使の派遣以来、仏教、文化、経済面で日本がお世話になった中国が世界最大の経済貿易大国として2025年ごろには米国を凌駕するかもしれないという時期に、日本はBRIおよび、資金面で諸プロジェクトへの融資を目指すアジアインフラ投資銀行(AIIB)にも積極的に参加することが日本の21世紀のグローバル経済戦略の為にも必須だと思われる。BRIやAIIBの欠点をあげつらうだけでなく、中に入って一衣帯水の隣国中国と中国国内のみならず、ユーラシアの発展途上国、さらには世界各国での諸プロジェクトで中国との協力の方策を前向きに研究し、日中相協力することこそ日本の将来の為にも肝要だと確信している。

3. 日本の地方自治体の東京都元知事の石原慎太郎が、それまで解決を将来の世代に任せると日中で合意していた尖閣島を買収すると米国のヘリテージ財団で発言。あわてた民主党の野田首相が尖閣島を国有化したことが発端となり、以来、日中関係は悪化の一途をたどり、今日、日本のメディアでは中国脅威論、中国への過度の非難が目立っている。誠に残念でならない。(下記諸書籍参照)

古来、7世紀の隋、唐時代から1400年

近くも日中は善隣友好の関係を続けてきた。

日中関係は一時不幸な時期もあった。しかし一衣帯水の中国が、2013年以来、人類運命共同体として打ち出している野心的な「一带一路」に日本も中国、および第三国で相協力して世界の平和と繁栄に協力すべきではないか。

4. 米国は中国の「一带一路」、「AIIB(アジアインフラ投資銀行)」、「中国製造2025」を米国への挑戦、脅威と受け止め、対抗を強めている。そのために米国、豪州、日本、インド4カ国での「インド太平洋構想」で中国の一带一路を包囲する作戦を推進しつつある。ペンス副大統領の昨年10月の中国対抗策の発表以来、米国は中国への敵対的対応をさらに強めている。また人口12億人を有し、21世紀の最後のフロンティアと目されるアフリカで最大の人口(1億8800人)とGDPを有するナイジェリア関係者も3月28日にJETROで開催されたナイジェリア・ビジネスセミナーで中国のBRIについては批判的な意見が聞かれ、日本の進出を歓迎しているのは事実である。

また3月28日に外人記者クラブで開催された英Oxford Analyticaの討論会でも英国の関係者は中国の一带一路については警戒的言辞が多かった。

5. 中国の一带一路の批判でいつも引き合いに出されるのが、2017年のスリランカのハンバントタ港の中国による99年の租借問題である。欧米は之を「債務の罠」“Debt Trap”と呼び批判している。

現地では確かに批判もあるが、港湾周辺の工業団地、スマートシティなども計画されている。現地の情報も収集し、実情を慎重に把握すべきだと思われる。

ギリシアのピレウス港についても中国遠洋海運集団(COSCO)が経営権を取得

したとして、批判があるが、ギリシアの駐日外交官はギリシアが債務問題で困っているときにEUではなく中国が助けてくれた。ギリシアは中国の海のシルクロードの欧州への物流の結節点として中国の参入を歓迎していると話している。ミャンマーのチャオピュー港、パキスタンのグワダル港、インド洋のモルディブやアフリカのシブチなどについても警戒論や批判があるが、現地の実情も勘案して評価すべきであると思われる。

しかし、一带一路の陸海の物流革命は21世紀の世界経済に大きな影響を与えることを認識すべきである。なぜならば、英国のパクスブリタニカを齎したのは産業革命ではなく、七つの海に君臨した英国の海運力によるものだからである。

6. 3月24日の日経や朝日新聞情報によれば、習近平主席は23日訪問先のイタリアとG7で初めて一带一路で協力することで合意に達したという。中国はEU加盟国とは東欧圏を中心に13カ国と覚書に調印しており、関係を強化している。イタリアはこの機会にアドリア海のトリエステ港の機能強化やターミナルや周辺の鉄道網の整備に向けて中国の国営企業が投資する見込みとのことである。今後一带一路で中伊はインフラ整備、物流、エネルギー、化学分野などで幅広く協力するという。両国はアゼルバイジャンでの製鉄所建設、伊国営炭化水素公社ENIとの提携など26の項目で合意したとのことである。総額で200億ユーロの経済協力になる可能性があるという。(日経3月24日)。今後イタリアと中国の一带一路での動きに留意する必要がある。

ただし、これらの動きに対しドイツやフランスは批判的な様子である。一带一路に対しては欧州は一体で対応すべしと中国をけん制しているフランスも今回の

習主席の欧州歴訪に際し、中仏両国は計15件、400億ユーロ(約5兆円)のビジネス契約を結んだ。このうち欧州エアバスの小型機A320を290機、中型機A350を10機が含まれる。いかにもフランス的である。(日経3月26日夕刊)

7. さらに留意すべきは東南アジアに散在する4000万人ともいわれるビジネスにおいて穩然たる力を有する華僑、華人ネットワークに注目すべきだ。

彼らはアジアにおいて目に見えない中国国家(Invisible State of China)、仮想現実国家中国(Virtual State of China)=共に筆者の造語=を形成し、アジアの時代を迎え、穩然たる力を有していることである。

19~20世紀をリードしてきたアングロサクソンの英国、米国は英国のEUからのBrexit、米国のAmerica First政策の下、グローバル時代に逆行しつつある。21世紀は中国、インド、ASEANなどアジア諸国が世界経済を主導する。

さらに世界ではICT, Data, EC, AI, スマホ, EV, G5, 自動運転, 空飛ぶ自動車, ドローンなど、発展途上国も巻き込み、経済の大変革期が訪れつつある。

日本はそのような趨勢下、一带一路とインド太平洋構想を融合し、アジアさらに世界の平和と経済発展の為の21世紀の確たる長期的な経済、外交戦略を独自に推進する方策を検討すべきである。

## II. 米中貿易戦争

1. 米中では通商関係者がワシントン、北京で打開策を交渉中である。しかし、米中貿易戦争は米中の経済、貿易、先端技術、軍事覇権争いの様相を呈しつつあり、解決にはなを時間がかかると思われる。

経済史的に考察すると、世界経済発展の軸がユーラシア大交易圏を形成した13世紀のモンゴル帝国から、ユーラシア交易圏を利用して広域の商業で活躍したイタリア商人へ移り、それが14世紀のルネッサンスに結実した。16世紀になると発展の軸がポルトガル・スペインに移り、両国が大航海時代に「海」の覇権を握り発展。17世紀にはオランダが造船技術と海運で世界経済を圧倒。

19世紀に入ると英国が世界最大の植民地を擁する大帝国に発展した。

20世紀になると、第一次、第二次世界大戦で勝利した米国が世界経済の中心に躍進。（『世界経済全史』宮崎正勝・日本実業出版社141頁参照）

2. その米国も2008年のリーマンショックで経済が下降に転じ、世界経済の発展軸は、再びアジア、太平洋、ユーラシア大陸に回帰しつつある。21世紀はASEAN（東南アジア諸国連合）諸国、中国、インドに世界経済発展の中心が移りつつある。

そのような中、中国が経済、先端技術、軍事面で躍進し、米国に肉薄しつつあり、場合によっては米国を凌駕するかもしれないことに米国は危機感を覚え、貿易不均衡の是正と、さらに中国の先端技術発展国家戦略「中国製造2025」を標的に貿易、経済戦争をしかけているのが現状だと思われる。

3. この構図はかつて日本が1980年代に米国との貿易不均衡で、日本車の輸出数量自主規制や米国への投資拡大。さらには1985年のプラザ合意で円の大幅切り上げを要求され、その要求を受け入れ、その結果、30年近くにわたり日本経済が低成長にあえぎ、GDP成長率はG7の中でも最低で、年1%内外に低迷している。当時、筆者はニューヨーク事務所に勤務中だったが、日米貿易不均衡に怒った米

国人労働者が日本製トランジスタラジオや自動車をハンマーでたたき壊す様を目撃した。

今回はそのようなトランプ政権の不満が大幅な対米貿易黒字を出している中国に向かっているわけである。まさしく歴史は繰り返すだ。

4. 貿易は比較優位の原則で安い製品が輸出においても優位を占めることは自明である。それを特に先端技術において中国のファーウェイやZTEが米国の技術を窃盗しているとしてファーウェイの製品の購入禁止を日本や豪州にも要求。さらにはファーウェイ副会長の逮捕を提訴しているのはいかがなものかと思われる。

かつて1980年代に日米貿易摩擦が激しかった折、日本の東芝機械が工作機械をポーランド経由ソ連に輸出。その結果、ソ連は潜水艦のプロペラの消音に成功し米国の国家安全保障に対し重大な損害を与えたとして、東芝製品の米国輸入禁止など東芝たたきが行われた。東芝は米国の新聞に謝罪広告を出すなどさんざんな目にあった。

しかし、ソ連潜水艦のプロペラの消音は、東芝の工作機械の輸入前から、実現していたということが後で判明した。東芝はあらぬ濡れぎぬを着せられたのである。そのときも日本政府や通産省は東芝に対してほとんど支援をしなかった。その時ニューヨークに駐在していた筆者は、日本政府は米国に対してしかるべき対応をすべきであったと残念に思ったことを覚えている。

5. 目下、米国は中国がスパイ行為で米国の技術を盗んでいるとクレームしている。しかし米国、英国、豪州、NZ、カナダのアングロサクソン5か国は一緒にスパイ衛星を使ったエシロン盗聴システム

で1940年以來、長年にわたり外国情報を盗聴していることをどう説明するのか。悪名高いエシュロン（ファイブアイとも呼ばれる）についてはかつて、EU議会が問題視し、調査を行い、不正な情報収集の実態の詳細な報告書を作成、世界に衝撃を与えた。その中には、米国が日本との自動車交渉に際し、米国CIAが通産省のコンピューターに侵入し、機密情報を不法に取得したことなど

明らかにして問題となった。日本政府はこれに対し、米国にまともにクレームもしなかった。

6. さらに米国国家安全保障局（NSA）やCIAの諜報活動で、米国GAFANAなどの支援も得た恐るべき世界的な諜報活動の実態を元NSA勤務のスノーデン氏が勇気を持って公表し、ファイブアイの不法な情報収集が世界に衝撃を与えた。

日本のメディア情報は米国発の情報が多中、米国以外の情報も収集し、バランスのとれた情報収集と情勢分析に努力すべきだと思われる。

7. 情報論の観点からも、最近の安倍政権の統計不祥事は、世界からの信頼失墜、さらに日本の政策決定にとって致命傷になりかねない。正確な情報、統計が正しい政策決定にとって必須であることをあらためて強調したい。われわれは情報の

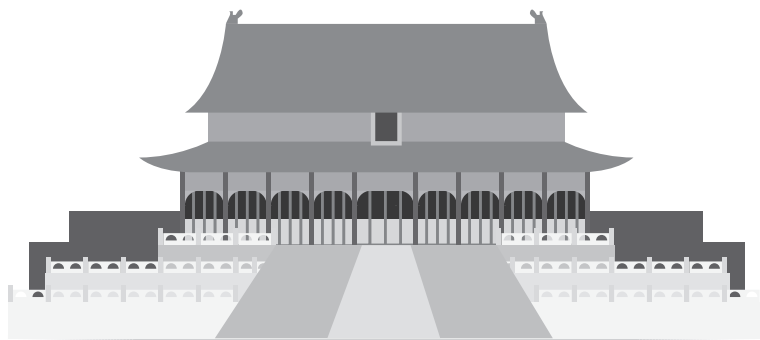
収集と分析、活用にあたっては、その情報がどこから出ているのか。まず情報源をしっかりと把握することが大切である。一方的な情報を収集するのではなく、情報を多面的に収集。その情報を冷静に分析し、正しい評価を行い、日頃のビジネス、生活に役立てることが肝要である。その意味で下記の本は中国の「一帯一路」や米中貿易戦争に対してかなり一方的な見方をしているように思われる。“極端に真理なし”だ。

現地の事情や関連情報を精査し、正しい情勢判断をすることが大切だと思われる。

以上

(参考資料)

- 「一帯一路」、「中国」に批判的な書籍一覧
- 『日本が危ない！一帯一路の罠』宮崎正弘、ハート出版 平成31年、
- 『中国が支配する世界』湯浅博、飛鳥新社 2018年、
- 『米中経済戦争』福山隆、ワニブックスplus新書 2019年、
- 『米中対決の真実』古森義久、海竜社、2019年、
- 『2020年「習近平」の終焉』日高義樹、悟空出版 2019年、
- 『米中「冷戦」から「熱戦」へ』藤井巖喜、石平 WAC 2018、
- 「一帯一路の衝撃」赤く染まるアフリカ、中東～ 『Wedge』 2019年3月号



## 会員寄稿文

## 十 句

内 田 天 英

わが胸の母と昭和と天瓜粉

夏ぐみをおやつとしたる終戦時

子にメール即返信来風薫る

筍掘る中三孫の声変わり

裏庭の闇に一閃額の花

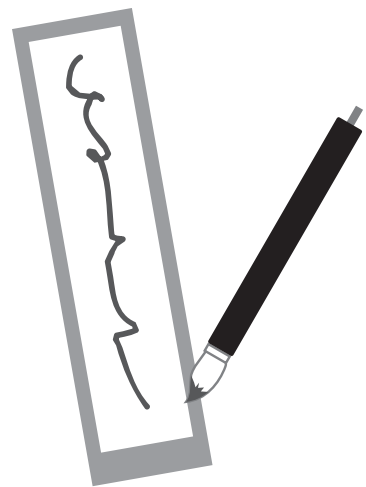
いざ神輿青年は髪バツサリと

和風ショールスマフォはじける白き指

クンパルシータ鳴りひびく傍沈丁花

月涼し今妻と聴く「神田川」

散る前にもうひと舞す柿紅葉



## 第14回ニチメン宝町会報告

川 本 寿 彦

2018年11月10日（土）、東京青山のアイビーホールで、第14回ニチメン宝町会を開催しました。大阪、名古屋、伊東の遠方よりのご参加3名を含めて、28名の方々が出席されました。

「ニチメン宝町会」は、ニチメン事務総轄本部を母体に2005年（平成17年）に発足し、現在に至っております。

ニチメン京橋ビル2Fにありました事務総轄本部（事務効率化推進部、情報システム部、通信部、事務用品管理部、大阪情報システム部）、経理本部の方々を中心に、営業会計部にご関係のありました方々、システムを利用されていた財務本部等の方々、商社業務のシステム化・IT化等にご関心をお持ちの方々が、老若男女、年齢に関係なく参加され、交流を深め、安らぎ憩いの場になっています。

宝町に会社があったことから、「ニチメン宝町会」という名前になりました。

会は上林さんの司会進行で、初めに2018年（平成30年）にお亡くなりになりました浦谷弘三さん、村松寶夫さんに対する黙祷が行われ、ご逝去を悼みました。

代表世話人の秀真さんのご挨拶、顧問の久武さんの献杯がありました後、各テーブルで思い出話、近況話等で、飲みながら、食べながら、賑やかに盛り上がっていました。

スピーチコーナーでは、大阪から参加の金谷さん、名古屋から参加の大河原さん等に近況報告をしていただきました。

あっという間に歓談の時間が過ぎ、閉めの前に、上林さんのギター演奏で、歌2曲「翼をください」と「今日の日はさようなら」をみんなで歌い、繋がりを強める事が出来ました。

最後は、顧問の久武さんの締めで、お開きとなりました。

次回は区切りの第15回目になります。お元気にお会い出来ますのを楽しみにしています。

### 2019年第15回ニチメン宝町会のご案内

- (1) 日 時：2019年11月9日（土曜日）11：30～14：00  
11：00～ 受付  
11：30～ 集合写真撮影  
11：40～ 開会、懇親会開始
- (2) 場 所：アイビーホール3階宴会場 ‘アロン’  
TEL：03-3409-8181  
<https://www.ivyhall.jp/access/>  
地下鉄：銀座線・半蔵門線・千代田線表参道駅下車  
(B3出口より徒歩5分)
- (3) 会 費：男性：7,000円、女性：6,000円

## &lt;世話人&gt;

代表世話人 秀真 正彦  
 顧問 久武 雅志  
 幹事 池側 保、上林 正嗣、川本 寿彦  
 世話人 舟木 路子、近藤 厚子、田中 香織

## 第14回ニチメン宝町会の集合写真



最後列左から、大羽、野本、山本  
 三列目左から、星野、榊山、太田、新藤、舟木、高橋、田中  
 二列目左から、上林、中田、金井、渡辺、伊藤、近藤、川本、池側  
 前列左から、大河原、金谷、秀真、久武、名島、永田



## 第25回ニチメン食料OB会報告

小 野 宗 一

今年で第25回目という節目を迎えたニチメン食料OB会は例年通り一ツ橋の如水会館レストラン「ジュピター」で4月13日（土）午後12時より開催されました。

初めに今回を以て世話人共同代表の座を降りる池田照幸さんから挨拶があり、また今回限りで世話人より退かれる松田實さん、新たに世話人に加わった若手の紅林哲夫さん、湯本章人さんについて紹介がありました。続いて共同代表から単独代表になった佐藤武宣さんから開会の挨拶がありました。引き続きゴルフの富士カントリー倶楽部笠間会を長年引っ張ってきている長老石原さんの乾杯の音頭で会が始まりました。今回の出席者は24名で昨年より6名少ない人数でしたが立食形式であちらこちらで会話の輪が広がり、お互いの近況報告、昔話に花が咲きました。

会半ばでゲストとしてお呼びした双日現役で食料・アグリビジネス本部長、宮部敏明さんより双日及び食料本部についてお話があり、双日、特に資源部門が業績好調であること、また子会社の双日食料では畜産分野が好調である等の説明がありました。続いて今回初参加で畜産部出身の角掛康弘さんより自己紹介と昨年秋に出版された自身の著書紹介がありました。角掛さんは現在、味噌、醤油製造で有名なヤマキ醸造株式会社の販売を手掛ける株式会社ヤマキにお勤めです。ここは有機野菜と有機穀類の生産・販売を行っており、その縁で「元商社マンが辿りついた有機農業ものづくり」を出版されました。商社マン自身が携わった仕事の内容を著したものを自費出版することはありますが、角掛さんは出版社（まつやま書房）社長自ら要請のあった貴重な出版でした。出版までは約半年を有し、書き上げるまで大変だったようです。その分読者からの感想は非常に励みになるし、嬉しいとのお話でした。苦勞して書き上げた力作の次作は？との問いにわからないとのことでした。

引き続き懇談に入り、会が終わりに近づいたころ欠席者の近況報告が事務局の橋本さんよりあり、続いて25回記念ということで抽選会が行われました。3等賞7名、2等賞3名、1等賞2名の12名があたり、歓声を上げていました。

最後に中国語通訳の会社経営をしており、大学の中国講座の講師をされている中田さんより締めの挨拶があり午後2時過ぎにお開きとなりました。

その後記念の集合写真を撮りましたが、連絡不徹底で帰られた方が4名いらっしゃいました。お詫び申し上げます。

一以下、出席者名簿です（男女別アイウエオ順、敬称略）

池田照幸 石原靖造 伊藤尚志 太田恵司 岡部健太郎 小野宗一 笠井公雄 倉持次雄  
小平実 佐藤悦三 佐藤武宣 千治松謙二 角掛康弘 土橋勇 中田龍彦 橋本昌二  
松田實 柳澤重英 山本昌弘 湯本章人 吉川敏朗 和田匡（男性22名）

佐藤照子（女性1名）

現役招待者：宮部敏明 双日株式会社 食料・アグリビジネス本部長



## 来年度第26回食料OB会の予定：

日時：2020年4月11日（土） 11：30開場 12：00開宴 14：00閉宴

場所：如水会館（千代田区一ツ橋）、1階 レストラン「ジュピター」



(敬称略)

二列目左から 宮部 中田 橋本 小野 岡部 千治松 倉持 小平 伊藤 吉川 湯本  
太田 角掛 柳澤

一列目（着席）左から松田 池田 佐藤悦 佐藤照子 石原 佐藤武



## 「俳句の会」いろは句会

佐藤 英二

平成元年に産声をあげた「いろは句会」も、お蔭様で第353回を終了し、5月からは平成を経て令和の時代の句会となります。歴史ある句会に参加ご希望の方は、ご遠慮なくお申し出頂きたいようお願い申し上げます。

前号会報以降、昨年10月から本年3月例会に投句された中から、各自の自薦による作品を以下の通り御披露致します。(氏名は50音順)

屠蘇祝ふ家宝の漆器幾星霜  
碧天に引鶴の影残りけり  
知る人の旅立ち続く冬の星  
外つ国の人々の技能や冬菜畑

宇治田薫風

さざ波の光を紡ぐ猫柳  
今朝届く焚きたてごはん栗御飯  
けさの香を描いてみたき野水仙  
節替り村の長老旅立ちぬ

久保田悦子

栗飯にお香味噌汁母の味  
木枯らしの吹く街角に灯がぼつり  
手拍子に笑顔を交はす酉の市  
人の為偽善ではなき社会鍋

佐藤 英二

銀杏を拾ふ人無き目白街  
祖父祖母の手を握りしめ七五三  
日を集め黄の際立てる石路の花  
何もせず過ぎ行く焦り年の暮

下川 泰子

やうやうに厨離るる大旦  
山焼や低き読経と法螺の音と  
不揃ひの畝黒々と春の雨  
日溜りの残す砂山冬の色

藤野 徳子

藪椿咲く故郷の墓しまふ  
門前の衛士にならんと土筆立つ  
男子寮寮母の活ける桃の花  
登校は背の低き順蛙鳴く

堀部 暁

あれこれの願ひを込めて吊るし雛  
春雨や色甦る朱塗り橋  
うららかやはいはいする児足丸し  
二ヶ月の風に向かひて走る人

山田珠真子

## ニチメン東西合同33会 “ENCORE” 2019

長谷川 洋



後列左から ; 菊澤 淳、松尾哲雄、大谷毅丈夫、津田忠祐、高橋 正、神田久大。  
 前列左より ; 松田邦夫、大場禎治、北川 敬、長谷川 洋、

昨年五月の横浜での33会が“最後の33会”となるはずだったが、“生きている限りは会おうじゃないか！”と再会の機運高まり、今年も集った。

足腰丈夫な関西組が 今年も遠路遙々横浜まで来てくれることになり 当方は感謝、感謝！

今回も松田君がツアーコンダクターよろしく、新横浜駅で関西組を出迎えてくれた。

何しろ松田君はベイルート、香港、豪州と駐在時代に来客のベストアテンドで有名だったとか。

さて 4月23日、桜木町ワシントンホテルにて、晩餐会。MC役は長谷川。

会の冒頭に 大谷毅丈夫君のいつもの軽妙なスピーチで“乾杯！”。

ミナト横浜の夜景を眺めつつ雰囲気は最高。美酒、美食を楽しむ。美人ホステスが欲しいところだが 予算の関係上、無理な話。

もう全員が80歳越えの爺様連中だが、心は枯れては居ない。

もう60年余の付き合いで、忌憚なく話し合い、昔話から近況まで、賑やかなことだった。

不思議なことに、現下の国際問題、国政問題は話題にもならず、補聴器の話にもちきりだった。

うん十万円の補聴器を持っている御仁も居て驚愕。日常の切実な問題だ。

関西組の神田君は、新潟から出てきた棉花部の高橋君とは何十年ぶりの邂逅だとか。老人には関西は住み易いのか、松尾、菊沢両君は、ゴルフ、ハイキングと元気だ。松尾君は、前日のゴルフ・コンペで優勝したとか スコア・カードを持ってきた。関東組で、元気なのは、大場君のみ。あと大谷、松田、鎌田（当日欠席）。長谷川はウォーキングなどのご辞退の体調だ。

翌24日は 松田君の案内で、赤い靴バスで、横浜の観光を楽しんだ。来年は、京都だと、みな張り切っている。さらには大阪万博2025まで頑張ろうと言うが、その意気は壮たるものだが 神のみぞ知ること。

【付録】 当日、会の始まる前に、ニチメン大阪バスケット部のミニOB会があり、神田、津田、高橋の33組に、一年先輩の北川敬さんが治夫人と共に参加。北川さんには、33会に特別参加してもらって会を盛り上げていただいた。



“ニチメン大阪バスケット部OB”（昭和30年代）  
前列，北川 敬、後列左から、神田久大、津田忠祐、高橋 正。

## 小林靖之君を偲ぶ

芳 賀 信 明

昨年10月22日、小林君を失った。

奥様から通知を頂いたときに本当にびっくりした。

その前の年に、大学のクラス会で会った時には、足がやや不自由で杖はついていたが、ほかにこれという疾患があるとの話はなかったからだ。

小林君と私とは大学時代から親友であった。

大学入学時に第二外国語のフランス語の組で一緒になった。

前期、一般教養課程の2年間は、英語のゼミで一緒だった。

後期、専門課程では会計学を選び、2年間同じゼミであった。

就職の時は、当然のように二人一緒にニチメンに入った。

会社ではさすがに同じ部というわけにはいかず、私は金属部に、小林君は油糧食品部に配属された。

私の最初の海外駐在はマニラであったが、彼も前後してコンゴのキンシャサ駐在となった。

私は、その後、通算すると7年半くらいの長期に亘って、米国ヒューストンの駐在や長期出張を務めたが、小林君はパキスタンのカラチやブラジルのサンパウロなど、厳しい地域を回っていた。

そんなわけで、会社では入れ違いが多く、なかなか会う機会がなかったが、会えた時には駐在地での話や、内地からの訪問者たちの噂話に花を咲かせた。

会社を退職してからは、二人ともアルバイト時代に、一層の親交を結んだ。

その間、一年に一度は大学のクラス会で顔を合わせたが、彼は家庭内のことに関しては口が堅くて、なかなかうかがい知ることとはできなかった。

親友ではあったが、私は埼玉県の春日部市、彼は横浜市の住人で、お互いに家庭訪問はしていない。

ただ、私が35歳で埼玉に家を買う時には、彼は二つ返事で連帯保証人を引き受けてくれたし、私がヒューストン着任後6か月間単身だった時期には、留守家族のことは彼に頼んで色々お世話になった。ただ、私は彼のためにしてやれることは、なにもなかった。

謹んで小林靖之君の御冥福をお祈り申し上げます。



## 訃 報

(2017年11月6日～2019年5月4日)

## ニチメン東京社友会

※非会員

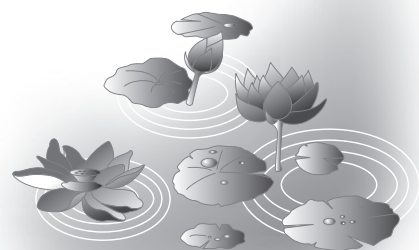
|    | 氏 名   | 出身部門 | ご逝去年月日      | 享年  |
|----|-------|------|-------------|-----|
| 1  | 佐藤光義  | 機 械  | 2017年11月6日  | 84歳 |
| 2  | 野崎紀   | 役員室  | 2018年2月23日  | 82歳 |
| 3  | 杉野昌三  | 不 明  | 2018年2月24日  | 83歳 |
| 4  | ※杉岡孝一 | 機 械  | 2018年9月18日  | 80歳 |
| 5  | 永田洋一  | 建 設  | 2018年9月22日  | 83歳 |
| 6  | 羽中田鐵也 | 機 械  | 2018年9月27日  | 82歳 |
| 7  | 島村健雄  | 財 務  | 2018年12月1日  | 85歳 |
| 8  | 吉内健次  | 機 械  | 2018年12月24日 | 69歳 |
| 9  | ※黒河道哲 | 機 械  | 2019年1月12日  | 76歳 |
| 10 | 福本匡純  | 鉄鋼貿易 | 2019年1月14日  | 82歳 |
| 11 | 三嶋敏夫  | 元専務  | 2019年3月2日   | 89歳 |
| 12 | 河西郁夫  | 元専務  | 2019年3月13日  | 86歳 |
| 13 | 石沢謙一  | 鉄 鋼  | 2019年5月2日   | 89歳 |

## ニチメン大阪社友会

※非会員

|   | 氏 名   | 出身部門 | ご逝去年月日      | 享年  |
|---|-------|------|-------------|-----|
| 1 | 田中良三  | 織 維  | 2018年9月2日   | 89歳 |
| 2 | 牧野峻三  | 織 維  | 2018年10月11日 | 85歳 |
| 3 | 米田圭祐  | 機 械  | 2018年10月30日 | 84歳 |
| 4 | 中川一弥  | 法 務  | 2018年12月6日  | 80歳 |
| 5 | ※段裕貴  | 織 維  | 2018年12月15日 | 84歳 |
| 6 | ※岩城正博 | 化 工  | 2018年12月15日 | 73歳 |
| 7 | 深田一郎  | 経 理  | 2019年2月15日  | 93歳 |

ご冥福を、お祈りいたします。合掌





## 【編集後記】

「会報」26号をお届け致します。

今号も、多数のご寄稿を頂戴し、厚く御礼申し上げます。

優しい響きのする「令和」の世となり、何となく我らの「昭和」がかなり昔のように感じられる今日このごろですが、大正・昭和・平成を大胆に生き抜いてこられた各位の感想はいかがでしょうか。

来年は2度目の東京五輪・パラリンピック、2025年には2度目の大阪万博、2027年には初めてのリニア開通（予定）とあります。

これらのイベントを元気で迎えられるよう、陸上動物最高齢187歳（推定）のゾウガメのジョナサン（1882年50歳時（推定）からセントヘレナ島在住で、静かに、急がず、文句も言わず、穏やかに生きている）に習い、“心穏やか”に過ごして参りたいと思っております。ちなみにジョナサンは男性です。

新しい「令和時代」を楽しんでいただき、長生きされて年二回の社友会会合においでください。

皆様には、会員相互の情報提供、随筆、エッセイ、珍譚奇譚、書評、同好会・同期会・OB会ニュース（開催予定、開催報告）、アーカイブス写真（各種会合、仕事関連、課外活動などなど）等前号までの掲載文などを参考にされ、ご寄稿いただきますようお願い致します。

一方、ホームページの「ふれあいの広場」欄に、①「旅行」②「花や景色」③「読書感想文」④「温泉情報」⑤「健康」⑥「趣味」⑦「美味しい食べ物の店や食べ方」の7つのジャンルを設けておりますので、内容をご覧の上、随時ご投稿ください。

直接にご投稿できますが、不明点などあれば下記までお問合せください。

- 投稿文送り先、問合せなど ⇒ [okumura1946@canvas.ocn.ne.jp](mailto:okumura1946@canvas.ocn.ne.jp)
- 会報次号（27号、12月1日発行）へのご寄稿の締め切り  
⇒ 2019年10月31日（木）

（奥村 睦夫）

## ニチメン東京社友会

〒100-8691 東京都千代田区内幸町2-1-1  
飯野ビルディング17F

会報発行人：石原啓資

編集担当・広報チーム

リーダー：奥村睦夫

メンバー：入江隆史 北川幸雄

中田龍彦 森田淑子

印刷所：有限会社 関内印刷